



誕生28周年を迎えるマイスター、
色褪せない魅力に迫る

WORK MEISTER

スタンスシーンで根強い人気を持つ王道ホイール、ワーク・マイスターシリーズ。

その人気は飽きのこないシンプルなデザインと、シルエットフェンダーにも
ビビるほどのフィットメントを見せつける深いサイズが設定できることにある。

深リムフェチたちを魅了してやまないマイスターについて、愛好家にナマの声を聞いてみたぞ。

source : ワーク 06-6746-2859 / 048-688-7555 / 052-777-4512 <https://www.work-wheels.co.jp>
三好自動車 086-462-0708 <https://miyoshi344.com>
photo : Kamishinjyo Photo Center

「人とカブリたくない！」

これ、スタンス・マガジンの取材の中で、オーナーが話すフレーズのベスト3に入ると言ってもいいくらい、よく聞く言葉だ。それなのにみんな履くんですよ、ワーク・マイスター・シリーズを。だって、マイスター・シリーズのホイールって、イベント会場でチェックしたら多数決で勝ちそうなくらい装着率の高いホイール。人とカブリたくないなら、そこは避けるべきなのに、だれもがマイスターを履いてしまうのはなぜなのか？ スタンス業界の七不思議の1つと言ってもいいこのナゾに、今回深入りしてみることにする。

まず理解してもらいたいのは、全部同じように見えるマイスターだが、同じものなんてほぼほぼ2つとないということだ。パッと見は同じでも、0.5インチ刻みで用意された

リム幅、3ピースならではの自由なオフセット/インセット/ゼロセット設定、さらにワークがドヤる豊富なディスクとリムのカラバリを組み合わせると、もうワンオフホイールをオーダーしているのと同じと言ってもいいくらい、自分だけのホイールが出来上がってしまうのだ。

そしてそれは、足元を中心にmm単位で愛車をブラッシュアップしていくオーナーにとって、これ以上ないくらいにありがたい。だって、いくらボディがキマっても、ホイールの出ツラやフィニッシュが甘かったら、すべてが台無しになっちゃうモンね。

結論。なぜだれもがマイスターを履くのか？ それは愛車にジャストな特別すぎるホイールを、リーズナブルな価格で手に入れたいから。予想できたオチで恐縮だが、これがマイスターを求めるオーナーの真実だ。